

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 小笠原村立小笠原小学校（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒100-2101

東京都小笠原村父島宮之浜道

E-mail shokuinshitsu@ogashou.ogasawara.ed.jp

Website <http://www.ogashou.ogasawara.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 95名 女子 64名 合計 159名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では、世界自然遺産として登録された小笠原の自然について、環境教育の視点から系統的な指導計画を立案し、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究的な活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようになることをねらいとしている。

■ 3年生 小笠原の生き物

小笠原自然文化研究所や世界遺産センターの協力により、小笠原固有の哺乳類「オガサワラオオコウモリ」、昆虫「オガサワラハンミョウ」の生態について学習をしている。理科をはじめとして、これまでの学習内容等との横断的な指導計画を立てるとともに、フィールドワークや直接触れる体験活動も盛り込んだ総合的な学習を展開することにより、小笠原の生き物を実感することができた。



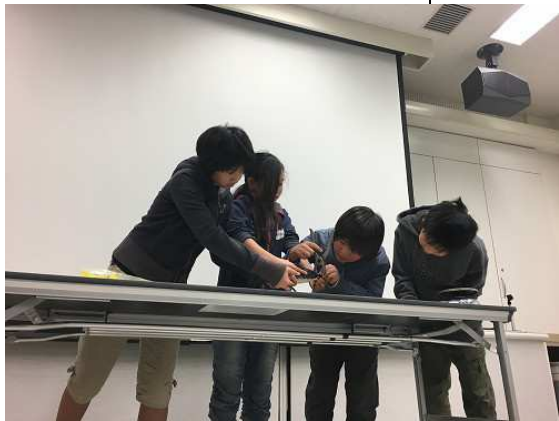
■ 4年生 小笠原の植物

島内観光ガイド「マルベリー」、(株)小笠原グリーン、(株)三徳建設、東京都支庁土木課、NPO法人「小笠原野生生物研究会」等の協力により小笠原の固有の植物について学習をしている。理科「季節と生き物」単元との横断的な指導計画を立てるとともに、フィールドワークやロゴマーク作り、啓発ポスター作り・配布等を盛り込んだ、総合的な学習を展開している。海岸と山地の植生の違いや自分たちの生活圏に希少な植物があるということへの理解を深め、貴重な小笠原の自然を実感することができた。



■ 5年生 アオウミガメの学習

NPO法人「小笠原海洋センター」の協力により、アオウミガメの生態について学習をしている。理科「動物の誕生」単元との横断的な指導計画を立てるとともに、海洋センターで実施しているアオウミガメの保護・調査活動を体験する活動を通して、アオウミガメをはじめとする海洋生物への興味関心を高め、郷土への愛着を育むことができた。



■ 6年生 アホウドリの学習

NPO法人小笠原クラブ等の協力により、絶滅危惧種であるアホウドリについて学習をしている。専門家から、アホウドリと人間との歴史やアホウドリの保護・調査活動を学び、アホウドリをはじめとする海鳥への興味関心を高め、郷土への愛着を育むことができた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|---|--|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
|---|--|

| | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間（複数選択可）

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

(書籍)小笠原の植物フィールドガイド

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項1-2, 1-3に対応

◇教育課程（指導計画）への位置付け

主に総合的な学習の時間の指導計画に取り入れている。また、生活科や理科、社会科等との連携も図っている。

◇指導内容・指導方法の工夫改善

講師の多くが保護者や地域の方々ということもあり、電話連絡やメールだけではなく、直接お話しする機会を多く設けたり、単元終了後のまとめ会を設けたりしている。また、専門家を招聘して総合的な学習の時間の学習指導方法やESD、SDGsとの関連性を学んだ。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項1-4に対応

◇学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるために

①共通理解の場の設定

年度始めや終りに学習内容等に関する共通理解の場を設け、他学年の内容について質疑応答している。

②データの蓄積化

紙資料だけではなく、データ化したファイルをサーバーに残し、次年度以降も取捨選択し活用できる状態にしている。

③助成金

該当する助成金システム活用し、授業が運用継続できるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

◇ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容

①学校評価を12月に実施

保護者、地域、教員向けに質問項目をほぼ同一にしたアンケートを実施し、次年度の学校運営に活用している。また、結果を「学校便り」で地域向けに公開している。

◇学校活動の評価（内部/外部）によって明らかになった成果と課題。

- ①成果：内地では行う事のできない環境教育プログラムの多様性・質の高さに対する、保護者・地域からの評価の高さ。
②課題：教員の異動に伴う、地域・保護者からの不安の声。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

◇ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容

学級だより、学校便り、地域での懇談会等での口頭発表、教育委員会主催の研究会等でのプレゼンテーション、Web サイトでの活動報告など。

◇ESD の推進拠点としての発信により得られた効果

新宿区の小学校とのライブ中継授業をはじめとして、小笠原小学校との交流を希望する学校が表れている。物理的な距離はあるものの、インフラ整備が整ったことで、リアルタイム交流ができるようになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

◇学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成

小笠原世界自然遺産センター、小笠原ビジターセンター、首都大学東京小笠原研究施設、小笠原支庁、小笠原村役場、麻布大学生命環境科学部、小笠原中学校、小笠原高等学校

上記以外にも、島内外の民間企業や団体との連携を図りながら、より良い授業展開ができるよう、ネットワーク形成を図っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項2-4に対応

◇国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成
小笠原村立母島小学校との交流授業、作品展への出展交流など。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

◇ユネスコスクールの活動による効果について

①地域との連携強化

活動を通して、地域人材の発掘や連携が強化され、村内での小笠原小学校の教育活動の拡がり、認知度の高まりを感じている。

②世界自然遺産というワードの定着化

本校の卒業式における卒業生の最初の言葉は「世界自然遺産小笠原！」である。個の言葉にあるように、児童の中では世界自然遺産というワードは定着し、一般化している。それゆえ、言葉の日常感・あたり前感を感じているところを焦点化し、問題意識につなげる学習過程をたどった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまでと同様に、小笠原小学校周辺の恵まれた自然環境と地域とのつながりを大事にした活動を行っている。（以下は該当する主な单元名）

■1年生、2年生

・地域の方々との交流(昔遊び) ・生き物大好き(カニ、コオロギなど)

■3年生

・南洋踊り・小笠原の生き物

■4年生

・小笠原の植物 ・父島安全マップ ・小笠原の太鼓

■5年生

・小港キャンプ ・アオウミガメの学習

■6年生

・アホウドリの学習 ・タコノ葉細工 ・母島 ・世界遺産